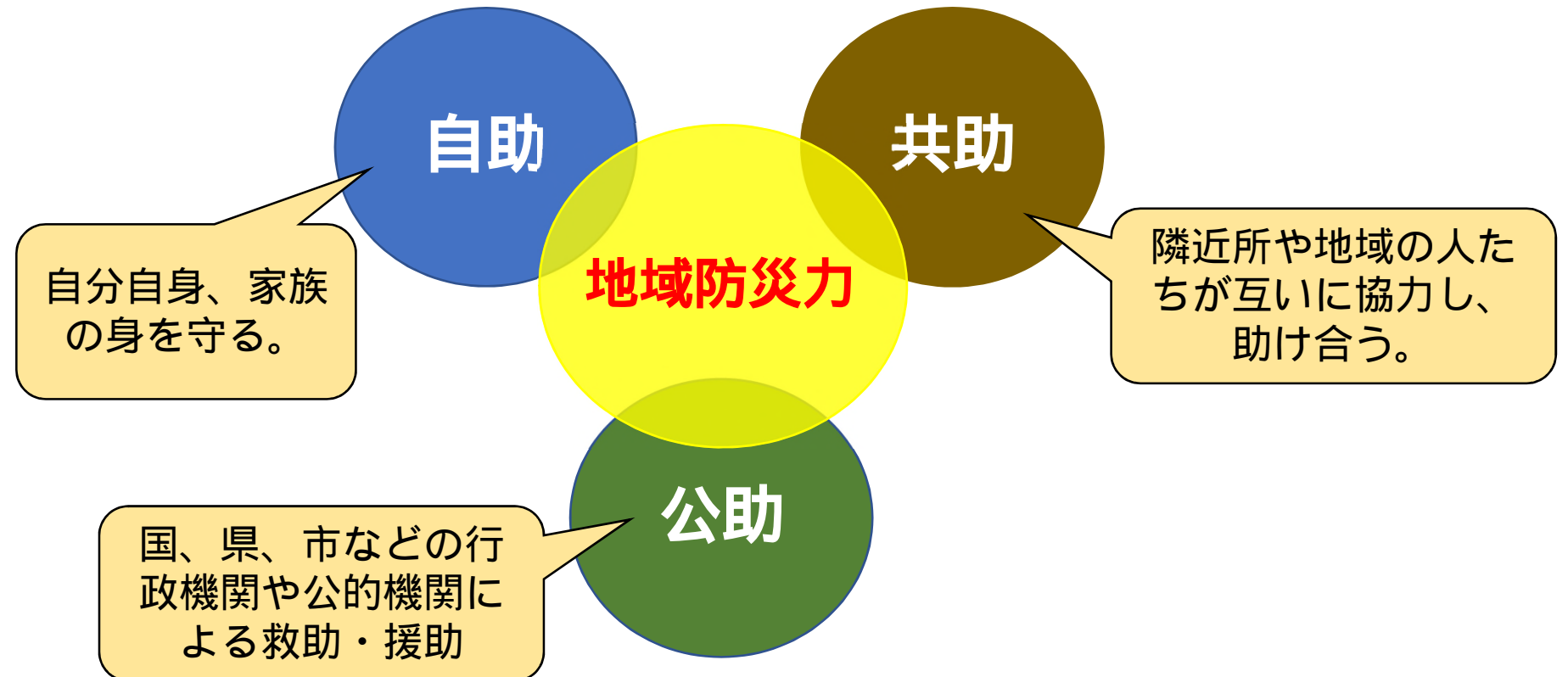


ファーストミッション
ボックスとは

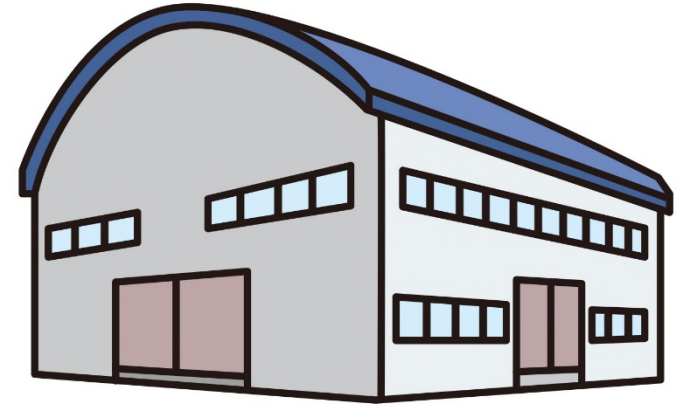
災害発生時、行政の対応は多岐にわたり、直後は公助が期待できない。
そのため、発災直後は、自助・共助が求められる。



共助の主体である自主防災組織の役割のひとつに避難所の運営があります。

避難所の役割

ライフラインが復旧するまで、被災した人たちが共同で生活する場所
避難所以外の場所に滞在している被災した人に対しても、情報や食料、飲料水、生活必需品等を提供するなど、地域の復旧・復興を支援するための地域の拠点施設も担う。



避難所で支援できる主な4種類

生活場所

水・食料
物資

衛生的環境

生活再建
情報

避難所を早期に開設し、スムーズな運営がされることで、被災者の生活再建も早まり、市全体の復旧・復興が進む。

共助が主体と言っても発災直後、自主防災組織の長 (町の総代)は多忙

自身の安全確保

避難行動要支援
者への支援

町内被災者の救
助救出・救護

町内の安否確認

初期消火

災害対策本部への
被害状況の報告

町内の被害状況の把握

避難誘導



大規模災害時、市職員が必ず避難所へ参集できるとは限らない。
町の総代も避難所へすぐに来れるわけではない。

避難者が集まっても・・・

避難所にある施設、備品
を活用できない。

訓練経験者も必ず来ると
は限らない。

避難所運営マニュアルを
見てもわからない。

わからないことはやり
たくない。

避難所が開設されない

被災者の救済が遅れてしまう。

それを回避するために

避難してきた人たちで避難所を開設できる仕組みを導入

ファーストミッションボックス

ファーストミッションボックスとは

避難所に集まった避難者が、確実に避難所を開設して運営できるように、初めに（**ファースト**）やるべき任務（**ミッション**）を示した手順書と、必要最低限の資器材が一緒に入った箱（**ボックス**）です。

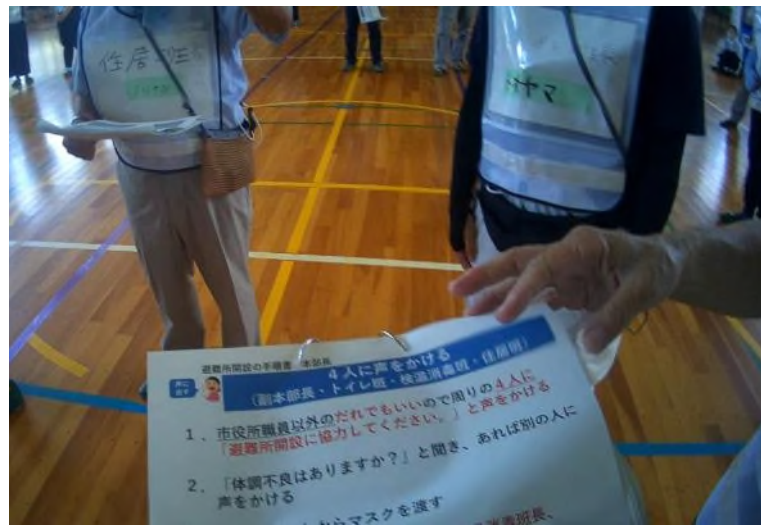
所定の場所に置いたボックスの中に手順書と資器材が入っている。
手順書には誰でもできる簡単な作業が書いてあり、やるべきことが記載されている。
手順書どおりに行動し、避難所を開設する。



ファーストミッションボックスの使い方



箱を開ける



手順書を読む



行動する。

- ・従来のマニュアルのように、全体把握する人間が指示をし、効率よく作業をするものではない。
- ・「次にやるべき」作業内容・方法だけを順番に提示する。
- ・「効率」より、「ひとつひとつ確実に」行うことを重視する。



「誰でもできる」「みんなで行える」

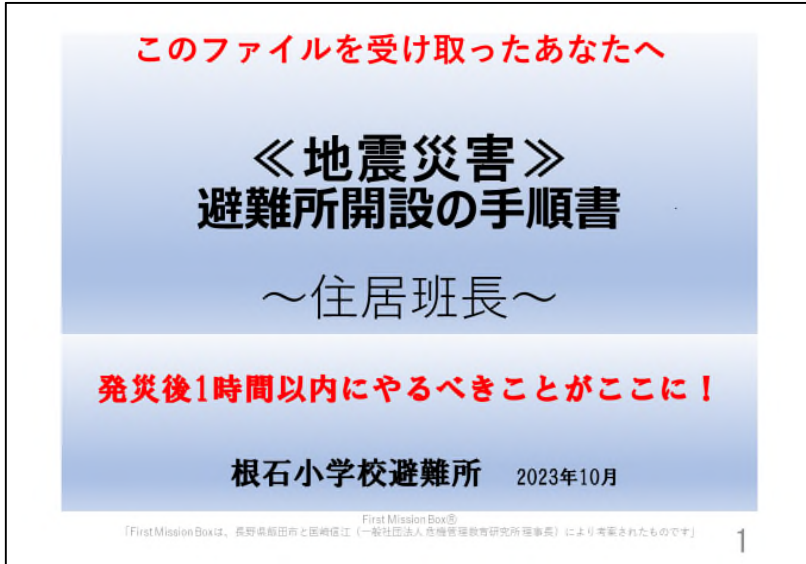
手順書

使うものが写真で載っています。

住居班長手順書（表紙）

全体の流れが書いてあります。

手順書（中身）



やるべきことが順番に書かれています。

避難所開設の手順書 住居班長

準備協力者を探す → トイレ設置の応援 → **掃除と資材の準備** → 本部と受付の設置 → 住居区画の設定 → 避難者の受入名簿作成 → 報告と交代の確保 → 待機終了

掃除道具を取りに行く

1. 住居班セットの中にあるシューズカバーをつけ、建物内の器具庫へ向かう。
必ず下の経路で行くこと

シューズカバー

声に出す

「体育館の中に入れるので、今から中を掃除します。」

「シューズカバーを履いて、掃除用具を取りに行きましょう。」

8

声に出して伝える内容が書かれています。

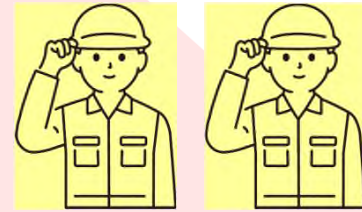
ファーストミッションボックスでつくる班

本部班

本部長



- ・各班の編成
- ・指示



- ・避難者への声掛け
- ・避難者の誘導

副本部長



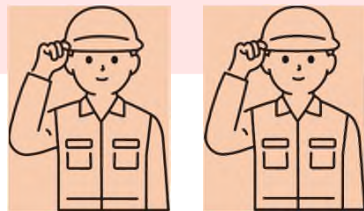
- ・鍵の管理
- ・本部長の補助

安全班



- ・防災倉庫までのルート
の安全確認
- ・施設内外の安全確認

トイレ班



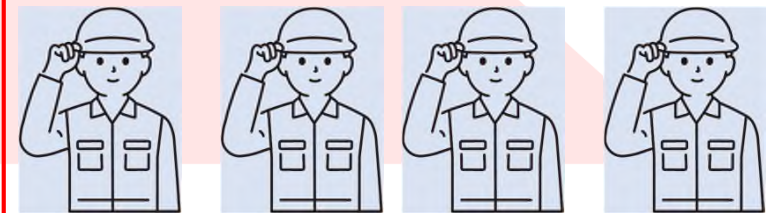
- ・簡易トイレの設置運営

検温消毒班



- ・避難者の検温消毒

住居班



- ・避難スペースの設置
- ・避難者の受付